

舊記

貞享初盤年

五

182

4

富山大学

菊池文書

566

一 是王懷素所書之字，乃王懷素所書，入用銀何字之法，取之
書山名或千條石，乃王懷素所書，取之通

一 十村山校坊人矯子，乃王懷素所書，取之相法，取之
王懷素所書

一 沛當家，沛感狀或乃書式，取之者言三，取之乃
一 是車種馬，乃須知，乃乃妻細，乃書出，乃

一 所門幕，乃乃所灯，乃乃所光，乃乃所揚，乃乃所乃

一 所了無沙種特種之事

一 十村未判平體了書出題平に用とる名木
足下條

一 百姓未出耶寺の不動入中島或後分相中より寺村
上より何れなる所也

一 村定之車年領より洞無沙著法方洞書物

所元中様所達より書物より洞方未之切之書物

一 微也院様 所書物未之稿上名三ヶ條右之付

在所村年寄に在り付の所平未稿上目録

一 在所書物に成り付重なる所人未慢而認了書出なる未

一 所系動之初 所書物十村特種非所法

一 池田村三ノ下より三ノ上

一 鉢池より中野

一 馬の所通に名所偏止に名所通

一 殿様 所書物野而在所村又右邊より入る所

書上

一 所村人沙種物よりなる由諸村に在り村又右邊由諸

書上

一 做如院樣 河事相持之書上

一 因之是た之或た之た之之字之書出之

一 向後水下村之川除河事清之初入札仕之河事未

一 大出村之河事方河除河所用之河事之河事之河事

河事之河事之河事

一 川河村接之河事之河事之河事之河事之河事之河事

一 日用之下申之河事之河事之河事之河事之河事之河事

一 川河村之河事之河事之河事之河事之河事之河事

一 他毛實入之河事之河事之河事之河事之河事之河事

河事之河事之河事之河事之河事之河事

一 接地之河事之河事之河事之河事之河事之河事

一 人常無想之河事之河事之河事之河事之河事之河事

一 河事之河事之河事之河事之河事之河事

一 拾子成多於也 麻附家とあるが、後身即流
る条

一 生於あわれみ、後身前と即流とて、武州寺尾村
あり、若し拾子成多と流罪と即身あり

一 賢地、田畠、永代、賣買、後身、即流、止、流書、其

一 庄村、又、有、馬、也、宮、瓦、は、長、き、間、に、即、身、年、半、

一 庄村、又、有、馬、病、死、し、即、身、持、持、り、紙、引、帳、書、上、

一 國、享、元、九、月、九、日、之、風、能、免、却、流、家、人、換、き、取、收、り、

少なるもの

一 福、田、村、花、室、大、端、方、後、身、金、銀、切、り、村、金、右、馬、

三人分書付

一 庄、村、三、毛、桐、齋、清、月、之、中、給、前、賣、付、り、即、身、

之、即、身、持、持、り

一 約、尾、先、を、焼、中、日、切、り、給、後、向、後、所、賣、り

一 拾、子、成、多、於、也、即、身、通

一 即、身、持、持、り、拾、子、成、多、於、也、即、身、持、持、り

往還の脚を里掬け以前にもうと法をとし中後者より席
何方が用紙法取れ外番細其より方より得る書付一紙は
拾得入中津一紙より金沢近一五歩内

一今石動町端すより川より里掬は以前法をとし中後者より
者より其法より後次より生有也も存不中其より方より得る
生より解費より方より何方が銀子より取れ後出内
見より利紙取し先より一五歩より方より取れ

貞享之

二月廿二日

小松

小松より方より取れ

廿生金屋より大原内諸横田諸より条大石より元田中和泉
より方より取れ

生曰汝之師友
山妻蓋右與否

我々は此百姓種馬と云ふ者をして名符年号月日付らぬ
二を括弧に入れり。

先帝各御支配所給百姓之種馬之件候に方々何村何々百姓
之等其地方に在る事候に由て各々中条之百姓南地之志等
之指図に非し御給事候に由て一取の是等中條にも方々何々
細心此之指図に近きとす村々とて此等御事有る一者此等
之等

貞享元

五月廿六日

得筆用懽

真同治壬午
山南耕齋

清紋之清幕并清挑創何幾ツ取上テ幾ハ就テ各法手合ハ新幕振
 内古清幕並ハ清挑創ハ割憐也此ハ清幕并ハ清挑創完上
 新幕振之新ハ而之テ一君ハ者毎々取取也此ハ可也吊也此上

貞享之

二月廿日

沛然田塹

朱四治之師
心家藏右與

卷八

一明曆元年

佛馬小松為拜頌

一 承應元年

御錢所領田中から受く

面判不巡番春文長より其市判見一箇中にも有るなる様
今判不巡帳指を左判不記一の中

一 市判数書のせの中

一 名もいふく一為に用事

一 馬子いふく一はる但市判を判一押を中留る事

一 市判書を長にあり振一は中一以上

貞享元

九月廿一日

吉田治左衛門

藤原郡十村は振持く山廻り中

跡にもぬり觸の百姓に不及ナ村述目取寺に并諸勤王に有るなり
其後の日一振がお守りて其村に上免一十有る是又一町に花宿取
振取即ちまか振め付し中村は花宿六遠二急有る振不取
いふ外にも花宿六百姓に九分中を分派述或いは早に市判
いふ花宿六取振振一は、系に遠二急は方二ある
右と通十村の百姓に十中一は市判一は振一は市判一は

貞享元

十月八日

御金所用書

吉田治左衛門 一箇割加有る

一村に定て申介が定て字除何村領とて洞中

一諸申破換し佛普請方ニ或所老申一窺中申付十村并法被執一
知中書付抄子共興書る由上中答る由後をあるは文符
相替判飛索やちいさき一洞申

貞享元年

一只今お改り用事申し佛定書お

微妙院様佛印におろし一と一申

一佛かき小申其外押立る所定書る由今頼本年

佛歸國以後一と一申

一各々佛定書る所定書る由一通し不淺る一と一申

右よりある所定書る由一通し不淺る一と一申
上より北 佛出れぬと

貞享元年

二月廿七日

右通國村を所定書る由一通し不淺る一と一申
其条見届其方共不及中絶下し者共一と一申
下におお持仕り抄子共方通持条一付右所定書る由今頼本年
佛定書る由一通し不淺る一と一申

貞享元年

三月朔日午ノ刻を以て

石岡加右衛門

忠四郎を以て

彌波能法被執人村山通申

一寺通
 一寺通
 一寺通
 一寺通

寛

戸出村米倉に作付中
 之和二年戸出村に米倉中
 哉後千人より中

右微妙院様 御印付式通 所判付書通 永可持任分中

いこ

貞享元年三月十日

戸出村 又右

一寺通
 一寺通

右通に御印一寺通に根付中
 三月十日に御印一寺通に根付中

微妙院様 御印付中 以用中 其用不中 其用不中 其用不中

与情面式冊家御系勒以後早速調う給哉
 令判紙先し一寺通に根付中

貞享元年
 三月廿四日

一寺通
 一寺通

下利村
 市助
 利山村
 冬島助
 戸出村
 又右
 四申村
 法右

一、五、七、九、

一
同

ノ
八
切
御折紙巻通
表

錢六貫文
佛手錢之表

他
幾か子
一
百三拾二
七
一
お
は
い

右今度御系物之別、芥川村線迄御誓指之下成
私大坂所子に在りて、中より太田子并錢形領仕性、至
親者、永年所之上

大馬村
半
長
又

貞享貳年三月廿七日

四
連判

東國名勝
一畝加在與

覺

馬の筋乃は後手。用方不當其不仁あるは、
 得一方先年か得倚せ。作れ得たふり、
 力し中い。向後得割持ふ。作れ名ふ。

頁字式

八
四
十
六

貞享貳年二月十日

窪田右左衛門

毛利又 大工

後長次右衛門

中村口之助

小塚善右衛門

中村助右衛門

中村誠之助

窪田右左衛門

山本仙之助

大坂

東保村

次郎之助

中条村

九右衛門

西保村

九三郎

賞

一 猪廬很多、田畑荒れ、人々も乏しく、帝も不及相成、越後鉄砲

あり、為すこと、事

附同村、家来分より、金銀打、留り、数

く、書付、不、後、乃

書事

一 玉込、鉄砲、免、科、之、多、り、常、成、鉄、砲、向、後、不、及、預、事

- 一 撫師族胞相續承增減之族胞方不及古親師代官領
- 主地民可為孫子承之
- 一 用心族胞承寄進族胞之
- 一 商賈族胞承貨物族胞之
- 一 江戶外諸國人承持之族胞承浪人移居族胞之年
- 右之各条を前より進出する族胞改方古約より仕替り更
- 一 撫師承寄進之商賈方外に在る承寄進族胞族胞
- おしり親師代官領主地民方為常之通例毎一年一交
- 宛族胞改方一證より仕替り

貞享三年に當り

四月

以上

族胞之長月御大目付松平右負守殿へ此後
公義御書之旨持越之下条より仕替り之
族胞も此より之より仕替り

廿二月

前田近江守
前田英仙守
本多安房守

永原權丞殿
東條七三郎殿

右録施之義
公義我師書之旨按成
師中兼師大之義此係此旨也
市上之内この如くの上

二月十二日

永原抄本
本係也三命

能天所河少教

十村中

松原所方地守

寺も入

師房の如く書とす

一解様哉中師房名に刻る生師錄銘度とて爲入
固師錄銘とて師房名に刻る生師錄銘度とて爲入

貞享三年三月朔日

寺村
子右衛門

寺村治右衛門
寺村加右衛門

師技指人共師技指とす此師
刻る師子書有年と持年一仕り然り
之内あるも久しき者なり
寺村治右衛門
寺村加右衛門

二月廿六日

改修奉行

田中村 田中村
 和泉村 和泉村
 久々村 久々村
 久々村 久々村
 長久村 長久村

一瑞成院様所代が祀り在馬十村役之儀有候所中条村に在

有相勅中 所領之時より為所祈禱之伊勢波系宮之儀

代系年以就仕所程願計あり持中より為月并所云之

もの相領右所祈禱之儀 所程願計之儀 所程願計之儀

左右所及市川長古所及所及之儀 所書与通所及之儀

其後之儀 所印之儀 所印之儀 所印之儀

一 所印之儀 所印之儀 所印之儀 所印之儀

一 微妙院様 所印之儀 所印之儀 所印之儀

所印之儀 所印之儀 所印之儀 所印之儀

一 兼應之儀 所印之儀 所印之儀 所印之儀

所印之儀 所印之儀 所印之儀 所印之儀

所印之儀 所印之儀 所印之儀 所印之儀

所印之儀 所印之儀 所印之儀 所印之儀

所印之儀 所印之儀 所印之儀 所印之儀

所印之儀 所印之儀 所印之儀 所印之儀

所印之儀 所印之儀 所印之儀 所印之儀

右之通就所居書上中以下止

貞享三年六月四日

戸々村 又在處

所集用書

通所居以下止

實

一三通 内至海所別之物

一三通

一武通

一武通

一九通

一五通

一七通

一五通

一五通

一五通

一五通

一拾四通

一武通

一五通

一五通

一武通

一武通

戸々村所集用書

田中村所集用書

福光村所集用書

内海村所集用書

大原村所集用書

東保村所集用書

金右衛門

大西村所集用書

三清村所集用書

佐佐木村所集用書

下利村所集用書

十村所集用書

石坂村所集用書

細島村所集用書

十村所集用書

中田村所集用書

中田村所集用書

一毫通

一毫通

一毫通

一毫通

一毫通

一毫通

一毫通

十六拾七通

右微妙院様所印之物并辨別之物上より中以下外新大銀子

味付物九枚持仕者七枚以上

貞享三年一月十二日

又右銀

十村東保村下之海銀子
 増山村 么右銀
 十村大西村之右銀
 下野村 在右銀
 十村大西村之右銀
 土生新時 在右銀
 十村大西村之右銀
 船泊村 之右銀
 十村内高村孫他銀下
 佐加村 孫子
 十村内高村孫他銀下
 立野村 四品之海
 十村内高村孫他銀下
 之村内高村孫他銀下

右側加右銀

并右銀
 家右銀
 孫他
 孫他
 次品之海
 金右銀
 次品之海
 右二之海
 市物
 右品物

反

向後田ノ一人二人ノ人ノ字ハ右ノ人ノ字と書上ノ市分
今一ノ市場ニハ右ノ人ノ字

平江名被
系年無濟
惟自就
可於城內者也

寬永拾五年

山陰清見寺

八月十日

清見寺

清見寺

利波部井波町

永寶元年

同奉安寺

名忠中

貞享之

八月廿九日

戸村

又右

改就

一斗月水所歸橫岡松西成石為石以皮以中為中

$\frac{v}{v}$
 $\frac{v}{v}$
 $\frac{v}{v}$

與子之

六月

陸奥之九村

茂右馬

性本江河爲之玄九

常

柳野庵七之海
中尾庵七之海
白柳庵七之海
米屋庵七之海

大場屋吉右衛門
金澤屋又四郎
八川屋大之助
若校屋治之助

紙屋、八席、各所
福地、左平次
申、右、清、各所
山、田、屋、三、右、所
吉、屋、右、清、各所
輝、右、又、右、所
荒、物、右、清、各所
申、右、三、右、所

右の用頭下申言に御殿に者共かり不申振と申布に申言に於て
 窓より中間より申言に御殿に者共かり不申振と申布に申言に於て
 中及び用頭下申言に御殿に者共かり不申振と申布に申言に於て
 窓より御殿に者共かり不申振と申布に申言に於て
 用頭下申言に御殿に者共かり不申振と申布に申言に於て
 窓より御殿に者共かり不申振と申布に申言に於て

八月廿八日
 八月廿八日

御殿用書

能美郡
 加賀郡
 石川郡
 蘆花郡

新水郡
 新川郡
 能美郡
 羽宮郡
 風玉郡
 珠洲郡
 所部持人村中

寛

大西村次郎殿

七川七村

田屋村

吉江中村

門前村御代

岩坪村

東保村次郎殿

増仁村

三信村と子郎殿

七ヶ村

但何村に於て申言に御殿に者共かり不申振と申布に申言に於て

福光村宗左衛門

七ヶ村

右の用頭

宣
十月四日

改化

津田寧海

右改化は、書付と通じ、中に「不他」の時、六が親中の時、夫
未の中獨り高辛心改化は、中に「通」を伴う。作後には奉
官親のこと。

津河守

本多出房后
前因依后房
奥村寺破后
奥村伊豫后

昔年師中米本惡愛以付別紙之通奉個所之新海
 二枚 作て家師兼用場分依代官并給へ申上又花宮
 米は中細りて其意に花を所花へ給へ智米極多
 採仕仕各、白、赤、黒、白、粉、米、不、随、多、白、白、米、牛、
 振、細、中、白、粉、中、白、粉、中、白、粉、中、白、粉、
 年、書、し、所、惡、米、白、粉、中、振、成、仕、形、中、振、是、又、一、年、
 己、上

十月十二日

改作

蘆花十村中

村水聲村中

一 拾地夫永代に當極に大切に成る各別と云ふ事々々
其方より至後年其不取中の事々々各不同法且其村に百姓
我々より成致らぬ依り先村に領地し 田畑を所取地入地
他村領地并領中し江道等委細給事と為記と改めし味
以後終る事々々振と云ふ事其止と云ふ領地より改拾地の事
所より江代者し用取事と云ふ事其止と云ふ事
一 繩張仕振曲天と云ふ事其止と云ふ事其止と云ふ事其止と云ふ事
其方より成致らぬ依り先村に領地し 田畑を所取地入地

一 竿取し是種竿を能依り竿筋すくにおり振と云ふ改め
竿と不依り多麻相におり時ハ振能遠方し中し并竿先
筋助し其是種竿又竿と云ふ筋助遠方振と云ふ改め

一 不及中各と改竿と云ふ改め其止と云ふ事其止と云ふ事其止と云ふ事
其方より成致らぬ依り先村に領地し 田畑を所取地入地
我々より成致らぬ依り先村に領地し 田畑を所取地入地

所より依り或拾間或拾間と云ふ事其止と云ふ事其止と云ふ事其止と云ふ事
其方より成致らぬ依り先村に領地し 田畑を所取地入地
我々より成致らぬ依り先村に領地し 田畑を所取地入地

一 惣高迎おと并川にお諸事接地次方ハ先拾と通ふお極と云
一 亦立歩教竿目におお其村に百姓お其村に所取地入地長
百姓し内なるも一と云ふ事其止と云ふ事其止と云ふ事其止と云ふ事
其方より成致らぬ依り先村に領地し 田畑を所取地入地
我々より成致らぬ依り先村に領地し 田畑を所取地入地

一野性之故に後地方の者中分多し。ため百姓にお情を有する時と豫
合に於て百姓相情と各別情を有する。故に之を以て又急い事。

一、白方折る、必矛盾、所て相極通を請、且又極拘む、斗て極子、玄目
小、考、依、使、持、之、足、分、仕、各、こ、中、の、均、元、深、各、を、見、而、り、と、こ、小、極、に

一、相帳付^り及^び其村^の百姓^の内^に、今^の時^に他村^の百姓^を能^く中^に禱^すてい。

三年依三百姓三爲三無三者相恤三貧三者三救三乏三者三振三恤

成按地不偏内亦互亦数内按地不藏言すくなく相欠りる

何と其仕振の者い杯の中あ——百姓が礼物を取中族も者い

振こ新抄しんしょう佐さ中ちゅういいるる振ふとと百姓ひやくしやうとと外がい相さう持ぢ付けにに不ふ長ちやう者もの振ふててとと中ちゅう身しん子こ

近年竿取は是將依好
百姓尤か密し
礼物を交旦又接比

[illegible][illegible]

不
善
名
と
急
後
宿
り
一
つ
中
付
け
向
け
多
由
衆
と
父
者
と
い
は
れ
た
る

市井中、名を振て仕いたるは、各々不急に、交ひるを急る甚し。

由
 左
 子

一各按此村止宿之別宿據之收國無之新之實之舊國之且

又竹所雪隱菰渚仕所拘と後古ゆる而も其所と有木々縁

其用之其外何之而也
 按不中振之也改之
近年八依如新交緣

石を掘りて
井水桶に
汲み入れ
て用ひし
と云ふ事
あり

贈方之酒者他所一取寄至賣中振と寄一に因陰接地

お海は是より沼邊分より村中割舟仕也
河内者も也也

百姓貴之。後美。瑞。師。允。除。之。以。事。以。得。其。其。不。以。何。效。に。

系此後多度之為得也

不言
今
我
以
其
公
族
所
謂
中
以
遠
意
之
不
如
衆

今年按地係所内按地が大分不足なる故也其外此の仕立
違ひ不審な自今以後随分其端を大急めと推地と極を
こなしと

丙寅

頁三

十月廿日

御算用場

推地
所奉行中

覚

ある人客又ハ牛馬客を外とし生類類重うしはる不死内捨振
抱おろし太く不居し族おろしハ急なうと作付の客とる振
成り方といひ新入といひ——同族たりといふも其科を由る

所蔵者可被下り止

頁四

正月

右通長 儀を依所内所領中ハ急なる守
生れお願の時神将との共をこみくハ急なる所人
寺社方ハ急なる所行ハ急なる文指書
作付方ハ急なる所行ハ急なる

頁五

二月

今度長 儀被 作付別紙所領書ハ急なる所
所意ハ急なる所行ハ急なる所

貞享四

二月十九日

前田佑後
奧村伊豫
本多安房
奧村玄破

朱田洛之海版
一乃訓加右與版

津留の故交の中觸るは元来此に在る名士也所法味を以て致し中合
他國他領に入者不及中又し高貴仕をのこす哉交の習けり
総り一考所中自に為其め新に之を以て

貞享四

丁卯

三月六日

清溪南園

共四卷
一百一十卷

覺

一 括子者、ハ卑劣、不及、屈所^い者、いたり、を世に表はれ、又ハ世の
 ことの者、いいて、その急、度、不及、付て、此事――

一、各類之類人ノ疵付ハ振成後ハ略今止ト通テ其外ニ其
外トモ多イ又ハ其の恥と痛れハ中々及不履隨分改善
云々主者いいて五二七中

一、食之大以自食物を給させず、振におすに、早、竟、食物を給させ
 以、其、人、之、大、に、以、に、其、成、以、後、六、七、年、中、と、な、い、と、も、不、中、と
 おす、不、屈、に、向、後、を、振、に、な、し、振、に、一、年、の、中、
 一、個、の、大、死、に、其、死、方、に、其、振、おす、に、お、す、各、条、向、後、を、振、

一 府内用中

一 大斗り、不取ある生類人、急ぎの人と云といしあされ
及行意の中

以上

頁京四

卯

四月日

以上

一生類阿ミミの段、付家あひま付ミ
寺尾村に國代場村者、店万捨し不取ミミ、死罪とも可
付付ミミ、先命所たけ、流罪被 作付ミミ、後、当妻
宵ハ多々、曲中ミミ、付付ミミ、後、代友、新、地、既ミミ

前方ミ 佐出ミ 飯原、望、相、守ミ、新、念、入ミ、付、付、者、ミ

頁京四

卯

四月日

以上

一 賃地、取ル者、年貢不ミ、賃地ミ、を、各、田、地、者、方、年、貢、必、ミ
新、者、方、ミ、相、守、不、取ミ、ミ、望、付、ミ、中
一 田、相、永、代、賣、買、付、ミ、お、被 作、付、通、米、割、替、ミ、ミ
右ミ、新、者、方、ミ、相、守、不、取、今、違、背、ミ、可、以、罪、科、者、也

頁京四

卯

四月日

貞享四年八月宮内省上ノ中ノ者

草子

一拾壹石四斗五升

磯崎郡

戸七村

欠四十八石

三拾貳石八斗

定納口年

四拾壹石貳分九厘

春秋丈沼

一貳拾月六分四厘

南春丈沼文

右又右馬場月十日病死仕中ニ付御扶持高納所性め初申と云

貞享四年九月二日

戸七村

又八

師改化

師奉行

此地出丸大風吹中ニ付能美郡在ニ浅家多入るも換養性
還給並本振杯吹たを——中中ニ就其師給高太京者
以外右に上ニ他ニ承継家数入るも換養性高太京者
手書有相通ニも此所を以テ換成ニ白隔所給ニより一茂
書有を以テ此所を以テ換成ニ白隔所給ニより一茂
細仕分中ニあるハ此所を以テ換成ニ白隔所給ニより一茂
と有し各数並手書有を以テ換成ニ白隔所給ニより一茂
師寄合、意依同ニ有付仕るを以テ換成ニ白隔所給ニより一茂
志を以テ換成ニ白隔所給ニより一茂

貞享四年

九月十日

改化奉行

十村中

師扶持中

二番付を以てし

一金屋、江村金右衛門下福町村花宗共錦うし成今夏新光之
相成し味仕錦う帳而奥書と金右衛門長を判飛仕錦うし
お今程又八文取又右馬込交お物仕錦うし 作也と金右衛門
紐又八文うし錦う帳而福町村花宗錦うし長を判飛加
中交お物原金右衛門又八文申お帳し錦うし仕名と作後
張事將其と中いお金右衛門改振と右花宗錦帳又八
判飛仕と中いおし

貞享四年九月廿日

金屋村

金右衛門

字九村

長

戸村 又 八

其四治を歸居
馬岡加右衛門殿

此懸中し

一戸出村主宅前月十六日、字九村長を歸り為村源也新口道仕足
御中承し、此、偏中お帰足とて村に仕則今、交帳お振の中い
就所、高世とて、金屋村お歸り此世六日、大申し、後らお定通
仕中承し、お金屋村におお内いお姓お妻お子とて仕名高多稲新
中いおおはとて、おいお歸り中し、お同定を法一、お中い
後、お同定お振除とて、お中いおお、裁太し、お歸り、お中いおお、
新川、お中いおお、代、お中いお中いお中い

貞享四年九月廿七日

久米村又

主利又去吏
申村助左與
禎禎

於左と弱き爲卷生尾先と鏡中袴は併襪中も切ひ糸交
 考し根にお穿い糸向度ハお袴中も交は
 新しらふ中何れ急と好し

頁四

十月十六日

多か信濃
あつた前

一、劉加在馬店
黃田治之協成

之

捨馬之故付任に被
作虫交、以るも捨
る仕者有るは、
所仕屋との仕
先け交も流
罪に、仕
向後捨る仕
もの
おろし可と
仕屋科考之

頁四

十一
月
日

[illegible]

頁
字
四

追ふけ追状別あり先こをこし中は且又所せかし而是中義字
多し振こて仕れ

之

戊辰

西月十八

前田佐渡
本多出房

之
居
之

正月廿二日

前田村
奥村因惜